記念の年迎え新たな時代へ飛躍

タカミヤホテルグループ創業300周年

今年12月で創業300周年を迎えるタカミヤホテルグループ（高見屋旅館）は、山形県内に11軒の旅館・ホテル、1軒の美術館を所有、運営している。江戸時代は藩主らに参勤交代の定宿として愛され、昭和に入ってからは多くの皇族もお迎えしてきた高見屋旅館。その300年の歩みと概要を紹介する。

岡崎彌平治によって創業

蔵王温泉の神話と伝説

蔵王温泉は、古くは「最上高湯」と呼ばれ、その発祥は1900年前、日本武尊（やまとたけるのみこと）が「吉備多賀由（きびのたがゆ）」という随臣を従えて東国の制圧に赴いた際、現在の蔵王温泉がある場所に差しかかると、多賀由は敵の矢を受け、「瀧山（りゅうざん）」の山頂に逃れた。

そこから東側のふもとを見下ろすと、岩場に湧き出る豊かな湯を発見し、早速山を下り、体を湯に浸すと癒やされて、早く傷が治ったと言われている。以来、薬湯として尊ばれ、吉備一族の誉れ高い武将の「多賀由」の名にあやかり「高湯」の2文字に変え、温泉の地名に反映させたと言い伝えられている。

霊峰「蔵王」の誕生

鎌倉時代以降、和歌山県の熊野三山を本拠地とする「熊野信仰」は、全国的に布教され隆盛を極めたが、蔵王はまだ「不忘山（わすれずのやま）」と呼ばれており、熊野派の修行僧たちは、噴火で形成された最も高い荘厳な峰を「熊野岳」と命名した。

そして、山岳修験の祖とする役小角（えんのおづぬ）が霊感で創造したとされる修験者の護身仏「蔵王権現」をまつり、さらに行者たちは、神や仏の姿が火口（御釜）の清らかな水面に映ることを念じて修業したことから霊峰「蔵王」の山名が誕生したと言われている。

高見屋旅館の創業

江戸時代も半ばに入った1716年（享保元年）、徳川吉宗が8代将軍に就いた年の12月、高見屋は岡崎彌平治（やへいじ）によって創業された。

時に幕府は財政再建と支配体制の再編を行ったいわゆる「享保の改革」の最中、山形の藩主は堀田正虎だった。その改革の波は地方にも及び、享保十年の「高湯村覚書」という文書には「当時、高湯村に湯宿が十七軒あり、緊縮政治下で経営が振るわず、村は正徳期に続いて二度目の大火に遭い貧窮に陥ったが、正虎の施策でどうにか立ち直ることが出来た」と記されている。

正虎の養子、正亮が官職名を「相模守」と名乗り、山形藩主についたころ、豊富ないで湯の高湯村に注目した正亮は、経済の活性化を図り、高湯を含むふもとの南山形一帯に、自分の堀田の姓を与えて「堀田村」と命名。以後、高湯村は「堀田村高湯」と改称され、今日の一大観光地に発展する礎になった。

旅人が安心して泊まれる宿

信頼される湯宿へ

江戸時代後期は商業の発達や伊勢参りなどが流行し、民衆の移動が活発になって全国各地に旅宿も多くなった。

そこで「東講商人鑑（あずまこうあきんどかがみ）」という携帯に便利な木版刷りの冊子が発行され、「東講」と書いた木札を掲げた宿は、丁寧な接待を受けながら一般の旅人も安心して泊まれる宿として重宝がられた。特に高湯温泉は、ひときわ目につく景観が描かれて紹介されている。

現在の高見屋旅館を示す「彌平治」の名のほか、14軒の湯宿の屋号が明記され、信頼された湯宿だったことが確認できる。

このような冊子の出現によって旅の範囲がより広がり、山深い高湯温泉にも多くの旅人が足を運ぶようになってきた。

蔵王発展とともに信頼築く

東講商人鑑が出版された当時の高見屋主人は、岡崎家9代目、彌平治重知（しげとも）と称した。

重知が41歳を迎えた1836年（天保七年）、全国的な飢饉に見舞われ、約10万人の死者が出たと言われている。相次ぐ惨事で苦労を強いられた村人の暮らしを考えると、重知は高湯の湯宿の経営のあり方に安心はできなかった。そこで、将来、子孫たちが気を引き締めて家業の経営に当たることを願い、私有地に9999本の杉を植栽した。あえて1万本から1本省いたのは「現状に満足せず常に将来を考え努力を怠るな」という思いが込められ、その教えは歴代の当主に受け継がれている。

さらに、1859年（安政六年）「庭訓」と題した8項目から成る文書を記した。重知が残したこの戒めの文書は、代々岡崎家の家宝として受け継がれ、宿の経営に大きく生かされている。

創業300年を迎えた老舗旅館へ

藩政期に入り、高湯村は木賃宿を営む農家も軒を連ね、多方面から旅人が出入りし、特に東講商人鑑に登録されている旅籠には参勤交代で入れ替わり山形藩主が訪れ、湯治を楽しんだと言われている。その中で高台に構える高見屋からは見晴らしがよく、藩主によっては常宿にしていた。

老舗の高見屋を好まれ、常宿としてお泊りになられた皇族の方々もいらっしゃる。1941年（昭和十六年）、三笠宮さまをはじめ、昭和二十五年には高松宮さまが、翌年には天皇陛下が皇太子時代に3人のご学友と4日間、宿泊されている。

こうした数多くの思い出が残された老舗旅館「深山荘高見屋」は今年、創業300年を迎えた。蔵王の発展とともに築いてきた信頼とおもてなしの心は、未来永劫忘れることはない。

蔵王温泉 深山荘高見屋の外観

ホテルルーセントタカミヤの露天風呂

価値ある建築物・所蔵品 わらべの里

「わらべの里」の内部

高見屋が運営する「わらべの里」は、5棟の建物からなる。各展示館は明治天皇行在所など、歴史・文化・芸術的に極めて価値のある建築物だ。また、菊池寛や深田久彌、里見弴をはじめとした文化人が数多く来館し、その時記念に書き残した色紙や書、絵画なども展示している。

【行在所】

天皇のご休息の場として最高の資材、最高の技術で建てられた木造建造物。

【庄屋の蔵】

明治中期に建てられた堀米家の米蔵で、2階建て土蔵。玄関は老舗の後藤又兵衛旅館の玄関を復元した。内部には、調度品や文人の書、豪商・豪農の歴史的品々を展示している。

【古しえの家】

宮城県古川市の民家で、江戸後期に作られた平屋木造建築物。雪国のため、柱は50センチ程もある太さで、荒々しく手削りされている。また、くぎ、くさびなどを使用しない組立工法であるのも特徴。内部では旅館の歴史（帳場）や屏風を展示している。

【雅の蔵】

槐（えんじゅ）という縁起がよいとされている木で建造された。内部には、山形城主・最上家・水野家などのゆかりの品々、武具や装飾品などを展示している。

【彌平治亭】

豪商の母屋。江戸末期の木造建築で、最上川の船場に位置していた家を復元した。京文化の影響を強く受け、細めの柱が特徴的。内部には古美術の車箪笥・長持ち・古美術の神棚を展示している。

―グループ内各施設―

TAKAMIYA 【旅館】

① 蔵王温泉 深山荘高見屋

② 米沢白布温泉 別邸山の季

③ 米沢小野川温泉 湯杜匠味庵山川

④ 庄内あつみ温泉 高見屋別邸久遠

⑤ 戸沢草薙温泉 高見屋最上川別邸紅

⑥ 南陽赤湯温泉 櫻湯山茱萸

TAKAMIYA 【デザイナーズホテル】

⑦ 日本海湯野浜 タカミヤ湯の浜テラス西洋茶寮

⑧ 蔵王温泉 たかみや瑠璃倶楽リゾート

【スタンダードホテル】

⑨ 蔵王温泉 タカミヤヴィレッジホテル樹林

⑩ 蔵王温泉 ホテルルーセントタカミヤ

⑪ 蔵王温泉 ホテルハモンドたかみや

タカミヤホテルグループ

〝杉9999本の教え〟胸に

16代 岡崎彌平治

〝杉9999本の教え〟300年の時を超えて享保元年（1716年）創業の高見屋旅館は、今年無事300周年を迎えることとなりました。当館は、山形蔵王の地で地主として、山守りとして、自然を守り、敬い、同時に旅館を営み温泉を大切に守ってまいりました。

蔵王温泉は、標高900㍍に位置し、冬は強風と積雪の厳しい気候に見舞われますが、それが世界一美しい樹氷原を造り出します。一方、夏は大変涼しくクーラー不要の別天地です。そのため蔵王温泉の付近では、農作物がほとんど育たない気候だったようです。

安政六年（1859年）9代目彌平治は、この地で暮らす子孫の安寧と、家業発展を願い庭訓を記したのです。私はこの庭訓について、父で15代彌平治より度々訓示を受けて育ちました。〝予年来心を用ひ杉九千九百九十九本を植立しは先祖の衆魂を慰んため又子孫の…救わん為なり1本を省きしは満れば欠くる恐れ有り…〟の書き出しで始まる8項目の教えであります。15代は、この教えの杉林を昭和二十六年に伐採し、蔵王に日本で2番目の本格スキー場とリフトの開発を始めました。高見屋の山と、鳥兜山を結ぶコースを、高鳥コース、ホテルを建築し、伐採した杉林にちなみ名称を「樹林」としました。このことが庭訓の教えを受けた、当館の多店舗展開の足掛かりになっています。

もう1本の木を植える思いは、現状に甘んじること無く努力せよと言うこと。私どもタカミヤホテルグループは、温泉の恩恵を受けながら、代々大勢の方々に宿泊賜り、顧客第一主義を貫いてまいりました。そして、現在ではお陰さまで、山形県内に12施設を運営するに至っております。

杉九千九百九十九本の教えを守って、数を追いかけるだけでなく多様性を、不易流行を心にして〝名湯一門高見屋ホテルグループ〟は、さまざまなお客さまにいつも求められる、心から楽しんで、喜び、安らいでいただける温泉旅館 として、全ての社員と共に最善の努力を重ねてまいります。

蔵王の自然温泉の恵み 感謝を忘れず

女将 岡崎純子

高見屋旅館に嫁いでからというもの、先祖代々の教えである「庭訓」をひたすら守りながら、日々お客さまをお迎えしてまいりました。これからも、蔵王の自然と温泉の恵みに対して常に感謝を忘れず、真心のこもったおもてなしを続けていきます。そして、お預かりしているこれらの宝物を、しっかりと次世代に引き継いでまいります。

女将プロデュースの酒類

―会社沿革―

高見屋300年の歩み

昔の高見屋の様子▶

1716年12月	最上高湯温泉で岡崎彌平治が「深山荘高見屋」創業
1859年８月	９代目岡崎彌平治、庭訓（ていきん）を記す
1941年２月	三笠宮さま深山荘高見屋にご滞在
1950年２月	高松宮さま深山荘高見屋にご滞在
1951年	千本松を伐採し、蔵王温泉スキー場をオープン
３月	皇太子殿下（天皇陛下）深山荘高見屋にご滞在
1954年７月	法人化。株式会社高見屋旅館設立
1957年３月	トニー・ザイラー、鰐淵晴子、映画「銀嶺の王者」ロケ
1964年７月	「タカミヤヴィレッジホテル樹林」開業
1970年２月	「雲海荘」（現ホテルルーセントタカミヤ）開業
1977年８月	深山荘高見屋リニューアル
1979年１月	アジア初の蔵王インタースキー開催
	三笠宮寛仁さま「樹林」に延べ81日間滞在
1984年12月	タカミヤヴィレッジホテル樹林増築リニューアル
1989年12月	ホテルルーセントタカミヤ増築リニューアル
1998年12月	ホテルルーセントタカミヤ、セゾンコートオープン
1999年９月	童子平に「わらべの里」歴史と文化の美術館
2001年11月	「ホテルハモンドたかみや」開業
2003年12月	深山荘高見屋リニューアル（離庵山水）
2006年８月	「たかみや瑠璃倶楽リゾート」開業
	台湾のランディスホテル＆リゾートと業務提携
	「タカミヤ湯の浜テラス西洋茶寮」開業
2009年３月	韓国大明リゾートと蔵王温泉スキー場が業務提携
2011年９月	庄内あつみ温泉「高見屋別邸久遠」開業
2012年４月	米沢市小野川温泉「湯杜匠味庵山川」開業
2013年４月	米沢市白布温泉「別邸山の季」を運営委託
2014年10月	戸沢村草薙温泉「高見屋最上川別邸紅」開業
2015年４月	南陽市赤湯温泉「櫻湯山茱萸」を運営委託